

WUOC2014 報告書

立教大学 3年 宮川早穂

◎8月1日（金）～3日（日）：移動

日本出発です。私は今年世界選手権に出場したため、今年2度目の海外遠征です。再びトルコ航空を使ってイスタンブール経由です。そして、去年 JWOC で訪れたチェコだったので、チェコも2度目でした。

プラハ空港について、ユニバーメンバーの半数で少しプラハ観光。プラハの街並みは美しい！物価も安く、東欧を楽しみました。



◎8月4日（月）～10日（日）：トレーニングキャンプ・モデルイベント

オロモウツというプラハから東に離れた地へ移動し、宿舎へ入りました。今回は、大学寮ということでそれほど期待していなかったのですが、部屋は広く2人部屋で、施設も綺麗でかなり快適に過ごすことができました。

トレーニングキャンプは、運営者がコーディネートしてくれて、トレーニング後には水と軽食が配られました。今まで様々なトレーニングキャンプに参加してきましたが、ここまで待遇良く運営者の方にしていただけたことはないくらい気に入っていただきました。トレーニング自体も、ロングの日にもミドルを走る選手には1:10000の地図を配っていただけるなど、至れり尽くせりでした。

私は本番スプリントリレー、ミドル、リレーを走る予定だったので、主にミドルライクな平らで白いテレインを重視して走りました。トレーニングキャンプでは、本番直前なので、本番と同じスピードを意識して走ることと、白く平らな森の中での方向維持を意識して練習を繰り返しました。ショートレグの処理はリズムが掴めていたのですが、長めのレグでのラフとファインの切り替えに多少の不安が残ったままとなりました。

トレーニングキャンプ期間中は、運営者の方のはからいで sightseeing の時間もありました。スプリントリレーの練習後、”mini car”と書かれたタイムスケジュールを見て、

なんだろうと思っていたら、本当に mini car でした（笑）オープンの中にあるダウンヒルコースをミニカー（マリオカートみたいなの）で一気に駆け下りる。かなりスリリングで楽しかったです。



◎8月11日（月）～8月17日（日）：本戦

◇8月12日：スプリントリレー競技

1. Switzerland 55.27

MP Japan

JPN9056 Yanagawa Azusa MP

JPN9103 Osaki Hirokazu 13.46 (12)

JPN9351 Miyakawa Saho MP

JPN9206 Shimbo Yoichi 14.42 (21)

ラストコントロール不通過により、失格という結果になってしまいました。ユニバー初めてのスプリントリレーという競技で失格になってしまったことは、本当にチームメンバーに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

◇8月15日：ミドルディスタンス競技

WOMEN 5.40km ↑ 50m

1. Jenzer Sarina Switzerland 30.48

2. Šístková Iveta Czech Republic 31.36 +0.48

3. Sund Goril Ronning Norway 31.42 +0.54

77. Miyakawa Saho Japan 45.38 +14.50

目標としていた40分には遠く及びませんでした。しかし、レース内容としてはほぼミスなく良いリズムでオリエンテーリングができました。白くて平らなトレインで、やはり体力は多く求められ、後半でもうひと踏ん張りができませんでした。

◇8月16日：リレー競技

WOMEN

1. Sweden 91.29
 2. Czech Republic 91.44 + 0.15
 3. Finland 92.38 + 1.09
 21. Japan 140.23 +48.54
- Takahashi Mie 44.39 (32)
Miyakawa Saho 50.09 (30) +94.48 (30)
Moriya Maika 45.35 (25) +140.23 (28)

前日のミドルではうまく走れたのですが、リレーではどちらも足を引っ張る形となっ
てしまいました。前日負った膝の痛みも多少影響が出てしまいました。相対的に順位は
上がっているものの、1走と3走の2人に助けられた結果となりました。

◇まとめ

WUOCでは、WOCでの悔しさをもう一度レースにぶつけようと臨みました。

ずっとこの2大会に向けて目標にしてきた、“リズムのあるオリエンテーリング”を
全てでないにしろ、少なからずそのような走りができたと思っています。

ただ、そのような自分の中で納得できる走りができたとしても、結果には結び
つかないのが世界の舞台です。

今後の自分が、世界で戦っていくためには、体力はもちろん、心も、そしてま
だまだ技術力も足りないところが多いなど、また世界で戦うために、一回りも二回りも
成長していく必要があるなど強く感じました。

◎今後ユニバーを目指す選手に向けて

私は大それたことは言うことはできませんが、世界の舞台で戦う熱気を感じに、ぜひ
チャレンジしてほしいなと思います。海外でのオリエンテーリングは、日本では決して
味わうことのできない経験ばかりができます。

まだ2年後ですので、今はただただ、それぞれのインカレに向けてオリエンテーリン
グに打ち込み、速くなればきっとユニバー代表になれるチャンスは全員にあると思いま
す。

◎おわりに

最後になってしまいましたが、この遠征に向けてたくさんの方からご支援・ご援助を
いただきました。東大 OLK・杏友会の皆様、株式会社リテラメッド様、ES 関東 C の
皆様、日本オリエンテーリング協会・東京都オリエンテーリング協会様、またたくさん
の応援をくださったオリエンテーリング関係者の皆様、この場を借りて、御礼申し上げ
ます。本当にありがとうございました。